

氏 名：山本 加奈子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲第214号
学位授与年月日：2022年3月10日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文審査委員：主査 鶴若 麻理（聖路加国際大学教授）
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）
副査 吉田 俊子（聖路加国際大学教授）
副査 有森 直子（新潟大学教授）

論文題目：ハイリスク手術を受ける患者が急変に備えるための advance care planning に関するディシジョンエイドの実装の可能性評価

博士論文審査結果

本研究の目的は、ハイリスク手術を受ける患者へ急変時に備えるための advance care planning (ACP) に関するディシジョンエイド (patient decision aids: PtDAs) を手術前に提供することで、患者が急変時に受けたい医療について納得した意思決定をするために PtDAs を使用できるか、実装可能性を検証することであった。PtDAs は、予備研究をもとに開発した「患者自身が治療の意向を考えて、それを代理意思決定者や医療者に伝えるかどうか」と「回復が難しくなった場合、延命効果を期待する治療を継続するかどうか」の2冊である。結果、開発した PtDAs は、ハイリスク手術前の患者の ACP を支援するために使用可能であり、評価され受け入れられた。

審査で指摘された主な点は以下の通りである。

- ① 本文内で「研究者」を「医療者」とも表現しており誤解を招くため、表記上「研究者」の立場を明確にし、臨床で働く「医療者」と区別する必要がある。
- ② 研究者による対象者に対する意思決定支援ガイド (decision aids, 以下 DA とする) の使い方、および研究者としての関わり方の記載が不十分である。
- ③ 混合研究法を用いているが、質的データのネガティブなデータに関する統合が不十分で、量的データとの統合において偏りが生じている。また、ジョイントディスプレイに含まれる質的データがタイムラインの最終インタビューで得られたデータの統合であるとわかるように説明を補足すること。
- ④ 本研究での対象施設や対象者の特性が結果に与えた影響についての考察が不十分である。

る。

- ⑤ 本研究で捉えている ACP は、広義の ACP の定義のなかでどの部分に位置づけられるのか、明確にすること。
- ⑥ DA 単体で介入するのではなく、医療者によるコーチングを交えた可能性について、今後の普及において重要であると考えているならば、考察に加え、普及のための示唆として追記すること。
- ⑦ この DA の実装や普及戦略を考えた時、医師の理解や認識、協働が不可欠である。そのような観点から本研究において実装が可能であった要因と難しくさせる要因について考察に加えること。
- ⑧ 考察部分で、SDM の話し合いやプロセスが促進されると述べられているが、SDM の定義が不十分のため、内容が理解しにくいいため追記すること。

以上の指摘について、適切に修正、追記されたことをすべての審査委員が確認した。

本研究は博士論文にいたるまで、7つの予備研究を積み重ねて段階を踏んで取り組んできた大作であり、手術後にクリティカルケアを必要とする患者の ACP に関する PtDAs の開発に寄与するという点でその新奇性が評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第5条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査に合格と判定する。